

独立行政法人大学評価・学位授与機構評議員会（第7回）議事要旨

1. 日 時 平成18年6月20日（火） 10:30～12:30
2. 場 所 学術総合センター 1112会議室
3. 出席者 末松会長、小出副会長、相澤、石井、宇野、河野、佐々木（雄）、柴崎、
関根、マルクスの各評議員
木村機構長、川口理事、山本理事、山野井監事、橋本学位審査研究部長
木村評価研究部長、後藤管理部長、加藤評価事業部長、ほか機構関係者
4. 機構長挨拶
機構長から、第7回評議員会を開催するにあたり、挨拶があった。
5. 評議員の紹介について
事務局から、第2期目の評議員について紹介があった。
6. 機構教職員の異動の紹介について
事務局から、本年4月1日付で、異動のあった機構の教職員について紹介があった。
7. 会長、副会長の選出について
議事に先立ち、第2期の評議員会の発足に伴い、会長及び副会長の選出が行われ、会
長に末松安晴評議員、副会長に小出忠孝評議員が選出された。
8. 前回の議事要旨について
確定版として配付された。
9. 議事
 - (1) 中期目標・中期計画・年度計画について
平成18年3月末に確定した中期目標及び中期計画の変更並びに年度計画（平成18
年度）の内容について報告された。
 - (2) 国立大学教育研究評価委員会委員の選考について
国立大学教育研究評価委員会委員の選考について審議が行われ、原案どおり承認され
た。なお、欠員及び追加補充などで緊急を要する場合には、会長に一任されることとな
った。
 - (3) 会長一任による各種委員会委員の追加発令について
大学機関別認証評価委員会委員3名、短期大学機関別認証評価委員会委員2名及び法
科大学院認証評価委員会委員1名について会長一任により追加補充を行った旨の報告が
あった。
 - (4) 平成17事業年度業務実績報告書（案）等について

平成17事業年度業務実績報告書（案）について次のような意見交換及び審議が行われ、原案どおり承認された。また、今後、修正等がある場合は機構長に一任することとされた。

（○：運営委員 ●：事務局 以下同じ）

- 自己評価としては、ほとんどAで結構だと思うが、評価を申請した大学の数が少なくBとしたのは短期大学の数が減ったからだと思う。私立短期大学は(財)短期大学基準協会の評価があるからだろうが、公立短期大学の出足が鈍っているのはなぜか。
- 公立短期大学は、4年制大学化を検討していること、また公立大学法人化の準備に取り組んでいるなどの理由で認証評価を検討する状況にない点が考えられる。数だけでBとなるのは不本意であるが、評価機関として社会に説明責任を果たしていく努力が更に必要となる。数値的な面からは、Bという厳しい自己評価をした。
- 他の独立行政法人の評価を見ていると、数値的な実績が1つの大きなファクターになっている。
- (財)短期大学基準協会は会員制を敷いているので、一手に抱えている格好になっている。短大の認証評価の仕組みについて、今後、関係機関間で連携・協調の在り方を検討を行う必要があると思う。

（5）平成18事業年度財務諸表（案）等について

平成18事業年度財務諸表（案）等について審議が行われ、原案どおり承認された。

（6）評価事業について

評価事業について、報告があり、意見交換が行われ了承された。

- ①平成18年度実施認証評価申請大学等について
- ②平成18年度評価事業に係る主なスケジュールについて
- ③平成17年度実施の認証評価の評価結果について
- 高等専門学校も多くは、認証評価を教育研究の改善や社会に対する説明責任に資する視点から、評価を真摯に受け止めている。大学も、評価を受けたところは評価の意義について認識が深められたと思う。
- 大学や高等専門学校からファカルティ・ディベロップメント等の取り組みの一環として、機構の評価について理解を深めたいとの要請が寄せられの講演の依頼がかなりの数になっている。ホームページにもQ&Aを載せるなど、機構と大学等が情報を共有できるように努めており、理解は深まっていると思う。
- 報告書を読むと評価を受けた大学も高等専門学校もファカルティ・ディベロップメントのような取り組みを適切に実施していることが分かる。

（7）学位授与事業について

学位授与事業の実施状況について、報告があった。

10. 次回の評議員会は、機構の事業の進捗状況をみて開催することとし、日程については、後日事務局より連絡することとされた。

以 上